

令和元年5月20日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03572

研究課題名(和文) 中期マルクスの景気循環・恐慌理論をめぐる新事実の学説史的再評価

研究課題名(英文) Evaluation of new facts on Marx's theory of business cycle and crisis

研究代表者

守 健二 (Mori, Kenji)

東北大学・経済学研究科・教授

研究者番号：20220006

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：マルクスの未公開草稿「Books of Crisis」(1857/58)を編集し、その作成過程および理論的内容(とりわけ「ダブル・クライシス」構想)の解明を行い、その集大成として『マルクス・エンゲルス全集(MEGA)』第IV/14巻を出版した。

マルクスの6部門生産モデル(1868年)の理論的意義を発掘し、マルクスが均衡間の移行過程に関する動的考察に多大な理論的関心を持ち続けていたことを解明した。

ヒックス『資本と時間』における「後期偏奇型」技術変化のシミュレーションを行い、マルクスの「ダブル・クライシス」構想を合理的に再構成するためには、このモデルが有効であることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果について、マルクスの未公開草稿の世界初刊として海外(ドイツ、デンマーク)で新聞報道や書評が掲載されたほか、論文が中国語に翻訳されるなどの反響があった。また本研究はマルクスの未公表の草稿の中に、マルクス独自の「ダブル・クライシス」構想を新たに発掘し、また超長期的な分析には解消されない中短期的な動学分析の存在を新たに解明するなど、従来のマルクスの景気循環・恐慌理論の経済学史上の位置づけを見直し、その再評価を迫るものであった。こうした成果は、複数の国際会議での招待講演のほか、分野の有力国際誌への単著論文4本の掲載、国際共著書4件の公刊によって広く公表された。

研究成果の概要(英文)：After further elaborating our edition of Marx's unpublished notebooks "Books of Crisis" (1857/58), elucidating their making process, and historically evaluating of their theoretical contents (especially the "double crises" concept), we published as a main research output Marx-Engels-Gesamtausgabe (MEGA) Volume IV/14.

We succeeded in revealing that Marx's six-sector production model (1868) aimed at a dynamic analysis of the transition process (traverse) between equilibria, and Marx continued to have a keen interest in such medium- and short-term dynamics as transition processes from an old equilibrium to a new one resulting from a shock throughout his research process from the Book of Crisis.

We simulated the "forward-biased" technical change using the input-output model in Hicks Capital and Time, and could show that this model is valid to rationally reconstruct Marx's analysis of the 1857 crisis as is found in the "double crisis" concept.

研究分野：経済理論・経済学説・経済思想

キーワード：マルクス 恐慌 MEGA

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究課題をめぐる研究動向：マルクスの景気循環・恐慌理論についての従来の研究は、過少消費説、不比例説、利潤率傾向的低下論など、マルクスの学説の独自性・特異性を強調する傾向にあり、他の主要学説との関連・共通性を問う問題意識は希薄であった。

(2) 本研究課題の着想：申請者は、先行する科研費基盤研究(A)「国際的共同研究によるマルクス恐慌論のデジタル・アーカイブの構築」において、1857-58年のマルクスの未公表の草稿 *Books of Crisis* 全3巻を編集・出版した。そこで明らかになった事実は、予想に反して、マルクスの中期を代表するこの恐慌研究では、過少消費や、利潤率低下などという「階級的視点」からの恐慌分析は全く見られないということであり、むしろ1850年代前半の好況期に行われた巨大な設備投資とその懐妊期間の存在を背景として、恐慌の発現を国際的な一次産品市場 (produce market) と国内の製品市場 (industrial market) とのギャップに見出す、いわゆる「ダブル・クライシス double crisis」の構想を基礎としていたということである。それはマルクスの景気循環・恐慌理論の経済学史上の位置づけを見直し、その再評価を迫る内容であった。

2. 研究の目的

上述のマルクスの未公表の草稿 *Books of Crisis* について、そこで発見されたマルクス景気循環・恐慌観の新事実について、(1)「double crisis」の構想を、景気循環学説の一大潮流である「過剰投資・過剰資本化説」の中に位置づけることの是非を確定するとともに、さらに(2)当該学説内部での理論的な種差をモデル分析の手法で明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、上記の目的を達成するために、次の4つの方法を採用した。

(1) 新公開草稿におけるマルクス景気循環・恐慌観の発掘・評価

MEGAのII/4.3巻、II/11巻など、初公表された1867-78年『資本論』第2部・第3部草稿の理論的精査を行い、「double crisis」の構想に見られる中期の *Book of Crisis* や『グルントリッセ』の期間分析が後期の『資本論』草稿にいかにかに継承されていくかを解明する。

(2) 「過剰投資・過剰資本化説」の再検討

景気循環学説の一大潮流を形成する「過剰投資・過剰資本化説」を、中期マルクスの「double crisis」構想の位置づけを念頭に置いて、再度吟味する。とくにこのグループの代表的著作として、J. Wilson, G. Cassel, A. Spiethof, A. Aftalion, D.H. Robertson, A.C. Pigou, M. Bouniatian, F. Lavingtonらの所説を検討する。

(3) モデル分析による理論比較

「double crisis」構想を含めて、「過剰投資・過剰資本化説」の理論的種差を析出するために、ヒックス『資本と時間』における「後期偏奇型 forward-biased」の投資モデルを用いる。このモデルは、外生変数の取り方如何により、さまざまな経路のトラヴァースを生み出し、学説間の種差の理論的含意を析出するうえで、一次接近として有益だからである。とくにヒックス以降新オーストリア学派によるこのモデルの精緻化、一般化の成果を取り入れつつ、併せてシミュレーションを用いてこのモデルの有効性を明確にする。

(4) 学会報告、専門誌投稿、書籍出版等によるアウトプット

本研究の最終成果は、欧州経済学史学会 (ESHET) その他の国際学会・会議において報告を行うほか、分野の有力国際誌への投稿、さらにマルクス恐慌理論に関する英文書籍の刊行によって研究成果の発信を行う。

4. 研究成果

上記の4つの方法に基づいて実施された研究は、それぞれについて下記の成果をもたらした。

(1) 新公開草稿におけるマルクス景気循環・恐慌観の発掘・評価

Books of Crisis の理論的意義を評価する作業の一環として、大英図書館においてその典拠文書のさらなる同定を行い、その成果をベルリン・ブランデンブルク科学アカデミーにおいて協議し、担当する『マルクス・エンゲルス全集 (MEGA)』第IV/14巻に反映させ、その完成度をさらに高めることができた。当巻を2017年5月に出版し、これがマルクスの未公開草稿の世界初公刊としてドイツで新聞報道やドイツ、デンマークで書評が掲載されるなど国際的な反響を呼ぶとともに、またこの成果を受けて吉林大学、武漢大学(下記「5. 主な発表論文等」[学会発表]参照)に招かれ招待講演を行った。

MEGA II/11巻に所収の『資本論』第二部第2稿の6部門生産モデル(1868年)を *Books of Crisis* の理論的發展として位置づけて再評価を行った結果、この6部門モデルは、均衡の比較静学のみならず均衡間の移行過程に関する動学的考察を目指しており、とりわけ自由市場の価格シグナルに誘導されることによる、移行の麻痺 (paralysis) を論ずる点で A. Lowe (1974) のトラヴァース分析と接続可能な内容を有することを明らかにした。その成果を、欧州経済学史学会 (ESHET) およびリヨン、東京での国際コンファレンスにおいて発表し ([学会発表])、*European Journal of the History of Economic Thought (EJHET)* 誌に単著論文として掲載した ([雑誌論文])。なおこの研究成果は、マルクス経済理論の経済学史上の位置づけを見直し、その再評価を迫るインパクトがある。なぜなら、そこで明らかにされたマルクス経済理論

の未知の側面はいずれも何らかの形で、移行経路（トラヴァース）分析に関わるものであったからである。つまり、賃金上昇など分配の変化にせよ（6部門モデル）あるいは技術変化による固定資本形成にせよ（*Books of Crisis*）いずれもショックの結果起こる古い均衡から新しい均衡への収束・非収束という、中短期的ダイナミクスにマルクスが多大な理論的関心を示していたことが明らかになったからである。そして従来の研究は、「理想的平均」状態を分析対象とし、それが変化する超長期的な運動法則を解明するというマルクス自身の方法論があるために、「有機的構成の高度化」「利潤率傾向的低下」といった側面を一面的に強調する傾向にあったが、エンゲルスによって採用されず未公表の状態に残されたマルクスの研究の中には、その論理には解消されない中短期的な変動分析があり、ヒックス以降の新オーストリア学派のトラヴァース分析に接続可能な豊富な内容を有していたことが明らかになったからである。

(2) 「過剰投資・過剰資本化説」の再検討

J. Wilson, G. Cassel, A. Spiethof, A. Aftalion, D.H. Robertson, A.C. Pigou, M. Bouniatian, F. Lavingtonらの所説を検討し、それらを固定資本の期間分析による景気循環理論として系譜化し、その中に中期マルクスの「double crisis」構想を位置づけた。そしてその成果を国際共著書において公表した（[図書]）。

さらにマルクスの「double crisis」の構想は、1857年恐慌を分析した同時代のO. MichaelisやM. Wirthの著作にも見られることを明らかにした。さらに大英図書館における『工場監督官報告書』の調査、および社会史国際研究所（IISG）でのマルクスのオリジナル草稿の調査から、マルクスの*Books of Crisis*ないし「double crisis」構想は、Tooke/Newmarchの『物価史』および『工場監督官報告書』におけるL. Hornerの調査報告の影響のもとに成立したものであることを明らかにした。つまりマルクスは*Books of Crisis*を作成する直前に、『物価史』に関する詳細な抜粋を行っており、『物価史』が1856年までを対象とした景気分析であったことから、マルクスはその分析の続きを1857年の新聞を使って自ら試みた。これが*Books of Crisis*の作成経緯であった。またマルクスも『物価史』も『工場監督官報告書』から同一部分を引用している。また「double crisis」の構想の源泉はRicardo『経済学及び課税の原理』の機械論に求めることができることも明らかにした。これらの成果はいずれも、*Books of Crisis* 公刊後、同文献に関する世界で最初の研究成果であり、リヨンにおける国際会議で報告され（[学会発表]）*EJHET*誌（[雑誌論文]）国際共著書（[図書]）において公表された。

(3) モデル分析による理論比較

Hicks『資本と時間』における投入-産出モデルを用いて「後期偏奇型 forward-biased」技術変化のシミュレーションを行った。その結果、以下のような当初の仮説を検証することができた。すなわち賃金を外生変数（成長率は内生変数）とした場合には生産の収縮は、WilsonやHayekが想定したように固定資本の建設期間中に起こり（「ハイエク効果」）、また雇用成長率を外生変数（賃金は内生変数）とした場合には価格下落は、マルクスやAftalionが想定していたように建設後の充用期間に起こりうるということである。こうして「double crisis」構想に見られるマルクスによる1857年恐慌の分析を合理的に再構成するためには、このHicksによる「後期偏奇型」技術変化のモデルを用いることが有効であることが明らかになった。この研究成果は国際共著書において公表された（[図書]）。

上記のHicks『資本と時間』における投入-産出モデルを用いた分析を行う過程で、今後の研究に関する以下の展望を得た。技術変化や分配の変化に起因する均衡の移行過程を研究する新オーストリア学派のトラヴァース分析は、Hicks『資本と時間』以降、B. Belloc, S. Baldone, R. Violi, S. Zamagni, F. Nardiniらの数学的精緻化によって彫琢されていく。その精緻化の特徴は、移行経路の解法としてVolterra積分方程式を用いる点にあり、とくに諸変数を不連続関数として扱う必要がある場合には、加えてルベグ積分、超関数、ラプラス変換などの数学的手法が用いられる。恐慌現象を説明する際には諸変数を不連続関数として扱うことは避けられないので、「double crisis」構想に見られるようなマルクスの恐慌観を合理的に再構成するためには、上記のように精緻化されたモデルを用いた解釈が不可欠である。筆者はすでにこの課題に取り組んでいるが、今後さらに継続して研究成果を得る計画である。

(4) 学会報告、専門誌投稿、書籍出版等によるアウトプット

本研究の最終成果は、国際学会（ESHET）複数の国際会議、複数の招待講演において合計10回発表されたほか、分野の有力国際誌（*EJHET*, *Metroeconomica*, *Cahiers d'economie Politique*）への単著論文4本の掲載、国際共著書4件の公刊、その他web上での論文掲載、ディスカッションペーパーの公刊によって広く世界に発信した。もちろん論文、報告はすべて英語による（ただし一部の共著書は独語）。その結果、著書に対して海外（ドイツ、デンマーク）で複数の書評が掲載されたほか、論文が中国語に翻訳されるなどの反響があった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

Kenji Mori (2019), The Books of Crisis and Tooke-Newmarch Excerpts: A New Aspect of Marx's Crisis Theory in MEGA, *European Journal of the History of Economic Thought*, 25/5, 912-925, doi:10.1080/09672567.2018.1475502, 査読有.

Kenji Mori (2019), New aspects of Marx's economic theory in MEGA: Marx's original six-sector model, *European Journal of the History of Economic Thought*, 25/5, 893-911, doi:10.1080/09672567.2018.1456556, 査読有.

Kenji Mori (2018), Marx's Original 6-Sector Model of Monetary Circuit, *Marx in the 21st Century*,

http://marxinthe21stcentury.jspe.gr.jp/wp-content/uploads/2018/01/mori_full_e.pdf (accessed 27 February 2018), 1-22, 査読無.

Kenji Mori (2017), The First Publication of Economic Manuscripts in MEGA and New Aspects of Marx's Economic Theory: Marx's Six-Sector Model and Its Theoretical Implications, *TERG Discussion Papers*, 374, 1-27, 査読無.

Antonio D'Agata/Kenji Mori (2017), An Analytical Foundation of the Classical View of Long-Period Prices with Differential Profit Rates, *Metroeconomica*, 68/1, 22-46, 査読有.

Kenji Mori (2016), Georg von Charasoff and Anticipation of von Mises Iteration in Economic Analysis, *Cahiers d'economie Politique*, 71, 65-89, 査読有.

〔学会発表〕(計10件)

Kenji Mori, MEGA and New Aspects of Marx's Economic Theory: Books of Crisis of 1857-58, Capitalist Crisis and Marx's Critical Theory in Memory of the 200rd Birthday Anniversary of Karl Marx: Workshop and Publications on Rosa Luxemburg's Application of Marxist Analysis and Critical Theory, 中国・武漢, 2018年10月20日.

Kenji Mori, MEGA digital and Marx-Engels Problem: Marx's 6-Sector Model VS Engels' Balanced Growth, 中国武漢大学哲学学院招待講演, 2018年10月19日.

Kenji Mori, The Digital Exploration of Karl Marx's Manuscripts in MEGA, 中国武漢大学哲学学院招待講演, 2017年11月21日.

Kenji Mori, Karl Marx's Books of Crisis and New Aspects of Crisis Theory in MEGA, Marxism and Socialism in the 21st Century, 中国・武漢, 2017年11月20日.

Kenji Mori, New Aspects of Marx's Economic Theory in MEGA: Marx's Six-Sector Model, Marx 1818 / 2019. New developments on Karl Marx's thought and writings, Lyon France, 2017年9月29日.

Kenji Mori, New Aspects of Marxian Crisis Theory in MEGA: The Books of Crisis and Tooke-Newmarch Excerpts, Marx 1818 / 2018. New developments on Karl Marx's thought and writings, Lyon France, 2017年9月27日.

Kenji Mori, The First Publication of Economic Manuscripts in MEGA and New Aspects of Marx's Economic Theory, 2017 Symposium on the 150th Anniversary of K. Marx's Capital, 東京, 2017年9月16日.

Kenji Mori, A Non-Basic System in Marx's Original Six-Sector Production Model, The 21th Annual Conference of the European Society for the History of Economic Thought, Antwerp Belgium, 2017年5月19日.

Kenji Mori, An Unknown History of Marxian Economics. Part 1: Mathematicians as Founders of Fundamental Marxian Theorem, Advanced Theories and Methods in Contemporary Political Economy, 中国・長春(吉林大学), 2016年10月11日.

Kenji Mori, An Unknown History of Marxian Economics. Part 2: Origin of Reproduction Schemes, Advanced Theories and Methods in Contemporary Political Economy, 中国・長春(吉林大学), 2016年10月11日.

〔図書〕(計4件)

Hans-Michael Trautwein (ed) (2019), *Neue Perspektiven auf die politische Ökonomie von Karl Marx und Friedrich Engels. Die Marx-Engels-Gesamtausgabe (MEGA)*, Studien zur Entwicklung der ökonomischen Theorie XXXIV, Duncker & Humblot, 81-111.

Matthias Bohlender/ Anna-Sophie Schönfelder/ Matthias Spekker (eds) (2018), *Kritik im Handgemenge. Die Marx'sche Gesellschaftskritik als politischer Einsatz*, Transcript, 139-157.

Marcel van der Linden/ Gerald Hubmann (eds) (2018), *Marx's Capital. An Unfinishable Project?*, Brill, 206-227.

Kenji Mori/ Rolf Hecker/ Izumi Omura/ Atsushi Tamaoka (2017), *Karl Marx. Exzerpte, Zeitungsausschnitte und Notizen zur Weltwirtschaftskrise (Krisenhefte). November 1857 bis Februar 1858*, Marx Engels Gesamtausgabe IV/14, De Gruyter, 680p.

〔産業財産権〕
出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

報道関連情報（研究紹介新聞記事）

Forscher aller Länder, vereinigt euch (Björn Rosen), Tagesspiegel, Berlin, 2018 年 5 月 29 日 .

6 . 研究組織

(1)研究分担者（海外大学へ転出により 2016 年 9 月 7 日に削除）

研究分担者氏名：玉岡敦

ローマ字氏名：Atsushi Tamaoka

所属研究機関名：東北大学

部局名：大学院経済学研究科

職名：博士研究員

研究者番号（8 桁）：10712268

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。